

取手・龍ヶ崎の元気な女性を紹介!

マチコ

となりのMatch子さん

しかくいやさい代表

いほりみかさん



Profile

1984年茨城県生まれ。結婚を機に龍ヶ崎市に移住。デザイナーとしてアプリ開発などに従事していたが、農業に開眼。茨城県立農業大学校の短期講習を受講後、2015年に農家として独立。食への興味につなげ、感謝の気持ちを再認識するきっかけにと農業体験なども実施。

野菜からもらった
感動を広く伝えたい

牛久市の文化地区でネギ農家を営むいほりみかさん。「文化ねぎ」を育て出荷するだけでなく、コロナ前には農業体験会やイベントも精力的に行っていました。また、「農園歌手」の肩書で、歌を通じて農業の楽しさを伝える活動



も。11月完成に向けて農業がテーマの絵本作りも進めています。

いほりさんの前職は、デザイナー。虫が大の苦手、まさか農家になるとは思ってもみなかったのだそう。「夫が始めた家庭菜園を手伝ってみたら、自分の手で食物が育つということに改めて感動してしまっただけで、近所の貸農園を利用し、野菜を育てるように。「家庭菜園を始めた頃にミニトマトの苗を育てたんですが、青空の下で赤く色づく姿、枝が折れても、また脇芽を伸ばして育とうとする力強さがいとおしくて。そうやって実ったミニトマトを食べたら、『太陽の味だ』って思ったんです。自分が感じた喜びを多くの人に伝えるため、就農

を決意します。

大きな夢を掲げて
チャレンジし続ける

農家に縁もゆかりもないいほりさんにとって最大の課題は農地探し。知人に会うたびに畑を探している旨を伝え、時間があればバイクにまたがり、休耕地はないかと農家を訪ねて回りました。努力のかいあり、人づてで1反(約1000㎡)の畑を借りられることに。その地が「文化」。女が化けるって、会社員から180度違う世界に飛び込んだ自分にぴったりですよね」と笑います。



野菜の移動販売車

しかくいやさい

HP / <https://negy.me/>
Instagram / @shikakuiyasai

いほりさんの1日(※夏季)



品もやりたい」と意気込みます。目標は高く、「村をつくること」。一粒のミニトマトから始まった夢を大きな実りに——いほりさんの挑戦は続きます。